

鉄骨工事 Q&A	工事現場溶接	裏当て金	制定	2011年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. ブラケット形式のフランジ現場溶接(固形エンドタブ)で、裏当て金の組立て溶接位置は？

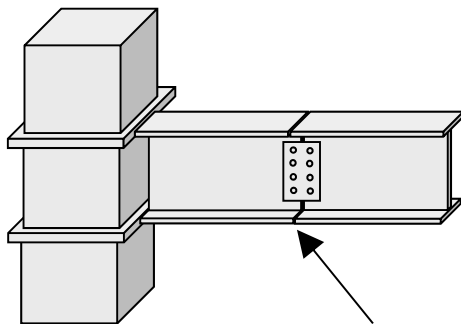
A.

鉄骨工事技術指針・工事現場施工編においては、

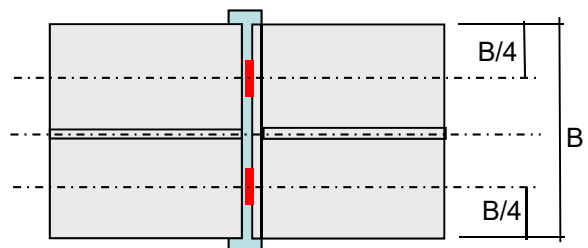
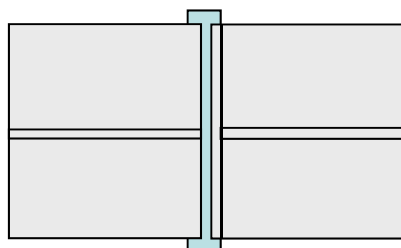
「現場溶接の時に特に下フランジ側では、応力状態の厳しくなるフランジ外面に組立て溶接を行なうと組立て溶接の止端から梁フランジが破壊する可能性がある。また、上向き姿勢で適切な組立て溶接を行なうことは困難である。したがって、現場溶接における組立て溶接は、エンドタブの部分で行なうのが望ましい。」と示されています。

しかし、質問のように固形エンドタブを使用する場合は、エンドタブの部分で溶接が出来ないため、同じく技術指針の以下のただし書きに従って、開先内で組立て溶接を行うことになります。

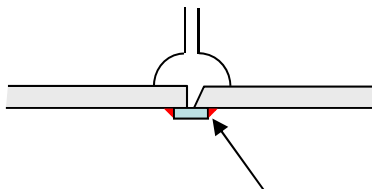
「ただし、工事監理者の承認を得て、組立て溶接を開先内に行うことができる。この場合の組立て溶接の位置は、梁フランジの1/4とし、かつ、本溶接時に組立て溶接を確実に再溶融させる。組立て溶接に用いる溶接は、本溶接時と同じ溶材を用いて行なう。」



下フランジの現場溶接



開先内での組立て溶接:OK



下フランジへの取付(上向溶接):NG